

抄 歡喜初後

一．題意

成就文の「信心歡喜」の「歡喜」について考察し、歡喜は初後に通じるものの、初起の歡喜は、行者の三業の造作ではなく、疑蓋無雜であることを明らかにする。

二．出拠

聞~~二~~其名号~~一~~ 信心歡喜~~センコト~~ 乃至一念~~セン~~ (『大經』成就文)

三．^{しゃくみょう}釈名：「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

- ・信心歡喜の「歡喜」は、信心の相を表し、願文の信樂の「樂」に当たる。
- ・初後の「初」とは乃至一念の「一念」、信心開發の「時剋(念)の極促(一)」をいい、これを「初起」という。初後の「後」とは「乃至」をいい信心が一たび開發すれば如来の大慈悲によって生涯相續することをいい、これを「後続」という。 Ref 信一念義、十念誓意

四．^{ぎそう}義相

(一)問題の所在「初起の歡喜の性格を問う」

ア)信心歡喜というからには、信心開發の初起にも歡喜があることになる。

時剋釈(信一念義)では廣大難思慶心と謳われている。

其按~~二~~真実信樂~~一~~ 信樂有~~二~~一念~~一~~。一念者、斯顯~~二~~信樂開發時剋之極促~~一~~、彰~~二~~廣大難思慶心~~一~~也(『信文類』(末)信一念釈(全 2-71、註 P250) 「時剋釈」出拠

イ)ところで、初起の歡喜を行者の三業と捉えると、往因決定に行者の三業が関与する余地を残し、「歡喜正因」「意業安心」「一念覚知」等の異安心を許しかねない。

ウ)そこで、凡夫の三業に関わらない初起の歡喜の性格が問われる。

(二)歡喜は初後一貫する

ア)信心(=信樂)は一旦開發すれば生涯一貫する。 金剛不壞の真心()だからである。

注 Ref 別序 註 P211、三一問答 三信結歎 註 P245、一念転釈 註 P252、三信總結 註 P253)。

イ)これに伴い、歡喜も初後一貫する。

(三)初起の歡喜の性格は疑蓋無雜である

ア)成就文の「信心歡喜」に対応する願文の「信樂」は、一貫して疑蓋無雜である。

ウ)そうすると、疑蓋無雜が初起の歡喜の性格であることになる。

(四)信心の異名としての歡喜の限界

信心の異名として「歡喜」の語を用いることはあっても「歡喜正因」とはいわない。

五．結び

歡喜が初後一貫する意義は、疑蓋無雜に尽きる。初起の歡喜の性格は行者の三業の造作ではない以上、疑蓋無雜の他はない。 以上